

第1回あかいわ創生有識者会議における委員意見(要旨)とその対応状況

No	委員の意見	対応状況
1	企業誘致に関しては、山陽ICの近くが有効に活用できるのではないかと思います。総社市は企業誘致が進んでいるが、総社ICと山陽ICを比べたときに、まったく利便性は変わらないと思うので、赤磐市でも、企業誘致による雇用の創出、新しい産業の創出ということが十分可能だと思う。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(2)「規制の見直しによる企業誘致の促進」、I-1-(3)「積極的な企業誘致の展開」により、土地利用規制の見直しを含めた積極的な企業誘致活動を推進する。
2	企業誘致を進める際も、どういった企業を誘致すれば地場産業を含め地域全体として伸びていけるのかということを考える必要がある。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(4)「魅力的な企業の誘致促進」において、地域の既存産業の活性化につながる企業の誘致等、地域全体を考えた企業誘致を進めていく。
3	市内には、若者の興味を引く事業を行っている企業がある。「赤磐市にはこういった企業がある」ことをPRすることで、若者が地域に残るのではないかと。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(6)「地域の若者の定着、UIターン就職の推進」において、若者に対して市内企業の魅力をPRしていく。
4	県外の大学に出た人が将来戻ってくるのかということについては、非常に不透明な部分が多いが、赤磐市にも技術を持った企業は沢山あるので、そういった人を引き戻すには、この企業ではこういった技術を開発しているんだとか、そういった魅力をPRしていくことが大事になってくると思う。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(6)「地域の若者の定着、UIターン就職の推進」において、若者に対して市内企業の魅力をPRしていく。
5	優秀な人材の確保は企業の成長にもつながるので、大学生を中心にした就職説明会など、地場企業がPRできる場を設けていくことが必要ではないかと思う。 また、東京、大阪、京都の大学にも多く進学しているので、そういった大学にもアプローチしていく手段を講じていくことが大切だと思う。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(6)「地域の若者の定着、UIターン就職の推進」において、Uターン促進に関する取り組みを積極的に進めていく。 また、都市圏の大学に進学した学生に対しても、赤磐市出身者のネットワーク化や、ICTを活用した情報発信等により、アプローチしていく。
6	高校や大学等への進学で市から出ていくことはやむを得ないことだと思うが、卒業後は赤磐に帰ってきてもらう、このための取り組みが重要なので、岡山県内の大学となにかコラボできることがあっても良いかと思う。 こういった取り組みは市単独でやるとなると難しい部分も出てくるので、周辺の市町とうまく連携すると良い。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(6)「地域の若者の定着、UIターン就職の推進」において、Uターン促進に関する取り組みを積極的に進めていく。 また、周辺市町との連携についても、「第1基本的な考え方」2-(3)により、他の地方公共団体とも連携を図りながら、実効性のある事業を推進していく。
7	観光振興のためには、岡山空港からのアクセスなど、道路事情等も良くしていく必要があるのではないかと。	ご意見を参考にしながら、総合戦略第5「講ずべき対策」のI-1-(8)「広域交通網基盤の整備促進」やI-2-(6)「観光受入体制の整備」を推進していく。
8	1. 5次産業にしても、コミュニティにしても商工会や他の産業支援組織と連携しながら、市を挙げて雰囲気づくりをしていかなければ前に進まない。 そのためには、市の職員が旗振りをしていかなければならないと思うので、これから40～50年先の赤磐市の産業振興を生涯の仕事・ライフワークとしてやっていける人を市の中(職員)にも育成すべき。また、そういう組織をつくるのも必要になってくるかと思う。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-2-(1)「産業振興人材の育成」において、地域の産業振興を担っていくキーマンとなる人材の育成を進める。 また、赤磐市の産業を総合的に支援し、振興を図っていく組織の創設についても検討を進めていく。
9	企業用地の確保も大事なことだが、既にある産業がより成長していくために、「地域の企業がどういう問題を抱えていて、どういう政策を希望しているのか」といったことをまず固める必要がある。	人口ビジョン第2部第1章第3節「産業に関する意識調査」や今後の継続的な企業訪問等で企業のニーズを把握していく。 また、企業ニーズを踏まえて、総合戦略第5「講ずべき対策」のI-2-(1)「産業振興人材の育成」、I-2-(2)「交流・連携等による地域産業の活性化」において、地域産業の振興に取り組んでいく。
10	観光振興では、戦略的に使える観光資源は何なのか、その観光資源をどのように使っていくのか、そういったことを考えていく必要がある。	総合戦略第5「講ずべき対策」のI-2-(4)「周遊・滞在できる観光ルートの形成」において、観光資源の掘り起こし、磨き上げを進める。

11	<p>観光面では、桃の花の開花時期に細い道を観光バスなどが通っているのを見かけるが、道が狭く駐車スペースもないので、こういったインフラの整備にも早く着手していかなければならないと思う。</p>	<p>ご意見を参考にしながら、総合戦略第5「講ずべき対策」のⅠ-2-(6)「観光受入体制の整備」において観光受入環境の充実を図っていく。</p>
12	<p>農業でどういうビジネスモデルを構築するのか、例えば、米、黄ニラ、ぶどう、桃など、いろいろな種類のものをつくって、年間2,000時間程度の労働ができるようなビジネスモデルをつくるのが大切。こういったことに対して支援をしていくことが重要ではないか。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅠ-3-(1)「経営感覚を持った農業経営者の育成」、Ⅰ-3-(2)「農産物の高付加価値化・地域ブランド化の推進」、Ⅰ-3-(3)「6次産業化・次世代農業の推進」において、ご意見も参考にしながら、ビジネスモデルの構築を図っていく。</p>
13	<p>人口が減る中で、農業の担い手をどう確保していくのか。赤磐市内にある農業大学の生徒の約半数が非農家出身であり、農業をやりたいが基盤がないという課題もある中で、農業生産法人への就職という形で就農がふえている。こういう状況の中で、「赤磐市ならではの」具体的な担い手確保対策を考えてほしい。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅠ-3-(1)「経営感覚を持った農業経営者の育成」において、市内の農業大学校、近隣の農業高校等と連携した担い手確保を進めていく。 その他、農業普及指導センター、JA、関係農家等と連携した担い手確保対策を講じていく。</p>
14	<p>農業のブランド化、6次産業化といったことについても、まず、人口が減っていく中で赤磐の農地をどういうふう守っていくのか、担い手をどう確保し育成していくのかということが課題になる。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅠ-3-(1)「経営感覚を持った農業経営者の育成」において、市内の農業大学校、近隣の農業高校等と連携した担い手確保を進めていく。 その他、農業普及指導センター、JA、関係農家等と連携した担い手確保対策を講じていく。</p>
15	<p>農業従事者の所得の向上について、ある農家から聞いた一例だが、JAへの出荷だけでは採算が厳しいという声を聞いた。直接販売して高い利幅が得られるようにする支援や法人化への支援などをやっていけば農業で食べていくことが可能になるのではないかと思う。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅠ-3-(1)「経営感覚を持った農業経営者の育成」において、集落営農・法人化への取り組みを進めていく。 また、直接販売等に関するご意見については、ご意見を参考にⅠ-3-(2)「農産物の高付加価値化・地域ブランド化の推進」等において販路拡大への取り組みを進めていく。</p>
16	<p>「特に農業を強くしていく」というプログラムは近隣の市ではあまり見られないので、これを赤磐市の特徴として推し進めていくことが必要だと思う。</p>	<p>戦略プログラム「強い農業の確立」の各重点施策により、強力に推し進めていく。</p>
17	<p>教育の立場から考えると、大学で市外に出ても、将来はふるさとの赤磐市に帰ってくる、そういった心を持った子どもたちを学校教育の中で育てていかなければいけないと思う。 そのためにも、赤磐市民が、赤磐はいいところだと思えるような施策ができれば良いと思う。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅡ-3-(3)「郷土の魅力を認識できる教育活動の推進」において、郷土に誇りと愛着が持てるような教育活動を推進する。</p>
18	<p>数は少なくとも良いので、赤磐市として思い切ったことをやっていただきたい。 たとえば、子育てだと、「結婚して子供ができれば赤磐市」といえるような、どこに住んでいても10分以内に保育所に預けられて、21時まで預かってもらえるとか、赤磐市がせめて県下で一番になるようなことを腹をくくってやらなければ、人口減少に対する施策の実効性を上げるのは難しいのではないかと思う。</p>	<p>「赤磐市としての新たな取り組み」を重点施策に反映させた(下線部参照)。 左記の保育に関するご意見については、総合戦略第5「講ずべき対策」のⅡ-2-(3)「子育てサービス・保育サービスの充実」において、延長保育や休日保育の更なる充実に向けた検討を行う。</p>
19	<p>故郷が大好きな子どもを育てていくことの大事さ、地域の教育力で親を育てていくことの大切さについて、地域との連携で考えていくことが必要だと思う。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅡ-3-(3)「郷土の魅力を認識できる教育活動の推進」において、郷土に誇りと愛着を持った子どもを育てていく教育活動を推進する。 また、地域の教育力で親を育てていくことの大切さに関するご意見に関しては、Ⅱ-2-(4)「地域ぐるみの子育て支援」の事業内容を検討・実施する際の参考にさせていただく。</p>
20	<p>まちづくりに関して、若い人が生活する上で、出かけられる、食べられる、見られるような、遊びの場所があれば良いのではないかと思う。 たとえば、ネオポリス中央のショッピングを活用して、大学生が展示会を開くとか、何か目新しいものを売ってみるとか、あれだけの敷地があるので文化の拠点のようなところになれば良いと思う。</p>	<p>ご意見も参考にしながら、総合戦略第5「講ずべき対策」のⅢ-1-(5)「魅力的な中心市街地の形成」において、利便性と賑わいのある中心市街地の形成を進めていく。</p>
21	<p>骨子の段階だと、「赤磐ならではの」部分がまだ弱いように感じる。県下を見たとき、これだけ大きな住宅団地が2つある市町村はおそらく赤磐市だけではないかと思うので、この2つの大型住宅団地とそこに住んでいる方々を大きな財産として、農業という視点で新しいコミュニティビジネスを起こす、あるいは産業面での振興を図る、そういったところを強く押し出していくことで、全国的な競争にも勝つことができると思う。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅢ-1-(6)「移住希望者の大型住宅団地への受け入れ促進」において、住民同士が助け合い、支えあうことのできるコミュニティづくりを推進するとともに、Ⅲ-2-(1)「市民が主役のまちづくりの推進」において協働の推進を図り、地域課題等をコミュニティビジネスの手法により解決する取り組み等を推進していく。</p>

22	<p>地域おこし協力隊など、外部からの知恵を活用し、地域の人材をつくる、組織をつくるが必要ではないかと思う。</p> <p>現在も、赤磐市は協働の推進や人材の輩出をしていると思うが、今後は、モデル地区のようなものをつくって地域と行政が協力してまちづくりをしていく、そういうことをやりながらさらに輪を広げていくことで、協働のまちづくり日本一と自慢できるような市にすることもできるのではないかと思う。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅢ-2-(1)「市民が主役のまちづくりの推進」、Ⅲ-2-(2)「支えあいによる地域のつながり」において、地域と行政が協力してまちづくりをしていく「協働のまちづくり」を推進する。</p>
23	<p>今地域にいる人、例えば女性とか高齢者といった方の活用を考えていただければと思う。高齢者にはアクティブな方が沢山おられますし、なんとかこういう方が活躍できる支えあいのシステム、就労のシステムといったことを考えていただければと思う。</p>	<p>総合戦略第5「講ずべき対策」のⅢ-3-(1)「高齢者の就労支援と社会参加への支援」、Ⅲ-3-(3)「地域での支えあい」において、高齢者が地域支えあいの活動に参画できる環境を整えていく。</p>
24	<p>赤磐市は岡山市の都市圏に溶け込んでいるということは事実だと思うので、岡山市との連携という視点は欠かせないのではないかと思う。</p>	<p>ご意見を参考にしながら、各施策の検討をさせていただく。</p>
25	<p>赤磐市でも、外からの移住に加えて、人口が減少する地域から市中心部への転居によるコンパクトシティの形成といったことも、検討する余地があるのではないかと思う。</p>	<p>ご意見を参考にさせていただく。</p>
26	<p>「赤磐市」という名称を「さいたま市」のようにひらがなにすると親しみがわくのではないかと思う。</p> <p>また、ひらがなにすることで子どもや外国人にも読めたり、知名度もいづらか上がったたりするのではないかとも思う。</p>	<p>ご意見を参考にさせていただく。</p>